

岡山の博物館

岡山県博物館協議会会報 No.47 平成27年2月

CONTENTS

- P1 わが館のイチ押し 赤磐市吉井郷土資料館
P2 館長随想「招き猫の左右と色」(招き猫美術館 館長 虫明 修)
P3 平成26年度 第1回研修会「立体物(彫刻・工芸など)の梱包」
P4~P5 ... 備前池田家の伝えた文化遺産を守る会の活動
P6~P7 ... 加盟館からの便り(つやま自然のふしぎ館〈津山科学教育博物館〉)
(現代玩具博物館・オルゴール夢館)
P8 気になる情報コーナー(日常と非日常をつなぐもの)

わが館のイチ押し

赤磐市吉井郷土資料館 「-ノスタルジックな尋常小学校校舎-」

赤磐市吉井郷土資料館は旧仁堀小学校の校舎を赤磐市仁堀から周匝へと移転し、改築した資料館です。廃校が決まり取り壊しの運命にあったこの校舎は、卒業生や旧町民の強い思いで保存されることになり、昭和59年に資料館として開館しました。

昭和2年に建てられた旧仁堀小学校の外観は当時の学校建築の先駆けとなったもので、正面のギャンブレル屋根やドイツ壁などが印象的な洋風建築です。校舎は平成19年に登録有形文化財に登録されました。

教室や和室を利用した展示室にはそれぞれテーマ別に、教育関連資料、農業・林業に関する資料、生活用具や娯楽に関する資料、信仰や年中行事に関する資料など、民俗資料を中心に500点あまりを展示しています。

これらの展示品はすべて住民からの寄贈品であり、市町村合併後は赤磐市内各地から寄贈された民俗資料が仲間に加わりました。これらの展示品とともに、勾配の緩やかな階段や、「仁」の文字がはいったガラス扉など建物の隅々まで楽しんでいただける資料館です。



資料館外観



和室を利用した展示室



生活・娯楽



教室を利用した展示室



農業・林業

館長随想

招き猫の左右と色

招き猫美術館 館長
虫明 修



岡山駅から北東に車で20分ほど走った金山の中腹にある当館は、1994年10月に開館した招き猫をテーマにした美術館です。2015年1月にリニューアルし、よりゆったり鑑賞していただけるよう、旧本館の1.5倍の広さがある旧別館を新たに本館として全面改装しました。

それでは、昔から多くの人に親しまれてきた招き猫についてご紹介します。

まずは、手の話。お客様から「右手と左手を挙げた猫がいるけど、いわれは何かあるの?」とよく聞かれます。右手は「お金」を招くとされます。金庫の側など一番大切な場所に置かれます。一方、左手が招くのは「お客」。お店の入り口などに置かれる。両方を並べて飾ると「商売繁盛」というのは江戸時代からの言い伝えです。中国からのことわざに「猫が顔を洗うとき、耳を越せば来客がある」とある。どうやらこれが、招き猫の由来に大きく影響しているようです。

しかし、右手と左手の二種類がある理由は、定かではありません。当初は作りやすいことなどから左手で始まり、その後、それでは右も、となったと思われる。お金の受け取りは多くが右手で、しっかりつかむ動作にあやかっただからとみられます。

手の位置も少しずつ違います。顔の横あたりで手を止めている猫が多いが、なかには頭を越すほどに伸びたのがあります。「手長」と呼ばれ、多くの福や遠くの人を招くとされます。手の位置が低いのは、小さな福や近くの人を招くといわれます。

それからもうひとつ、意外に知られていないのは色の違いです。人々のさまざまな願いがそこに込められています。

冒頭に少し触れた白猫は「開運」を招くと言われます。白は無垢で、どんな色にも染められるという夢をもたらしてくれるからでしょう。黒猫は「魔除け」。除難免災の願いがこめられ、不吉を遮る番人とも言えます。赤猫は「厄病封じ」。江戸時代に天然痘、疫痢などの伝染病が流行し、高熱に見舞われた様子から赤色になったと思われます。そして金の猫は、ずばり「金運」です。黄金の輝きを全身にまとい、力を振り絞ってお金を招いていると解釈できます。このほか最近では風水の影響などもあり、緑猫は「学力向上」、青猫は「家内安全」、ピンク猫は「恋愛成就」といわれます。

たくさんの招き猫たちが、加盟館、賛助会員の皆さんのお越しをお待ちしています。



招き猫美術館外観

平成26年度第1回研修会

「立体物(彫刻・工芸など)の梱包」

平成26年度岡山県博物館協議会第1回研修会を下記のとおり開催しました。

日時：平成26年10月23日(木) 13:30~17:00

場所：岡山県立美術館

【研修会内容】

1.文化財の梱包(彫刻・工芸など立体物)

講師：日本通運美術品取扱作業員

中田利枝子(岡山県立美術館学芸課長)

福富 幸(岡山県立美術館主任学芸員)

2.鑑賞「光琳を慕う 中村芳中展」

講師：中村麻里子(岡山県立美術館主任学芸員)

なお、午前中に25周年記念事業について検討会をひらきました。事前アンケートをもとに実施を検討。2016年春の「おかやまディスプレイーションキャンペーン」に合わせて広報する。1:スタンプラリー・割引パスポート/2:加盟館紹介展覧会/3:連続WS&講座/それぞれについてワーキンググループを立ち上げ、内容を考える。ことを確認しました。



研修に参加しての感想

平成26年10月23日(木)に開催された、仏像と人形の梱包についての研修会に参加させて頂きました。当館には大きな仏像の所蔵品がなく、取り扱う機会はあまりありませんが、立体物の梱包の際に参考に使わせて頂きます。たとえば梱包前にももの状態をよく確認する、仏像の光背を台座から外すときは二人一組で行う、一番障害がなく外せる所から外していく、途中で外れそうなものは外して運ぶ、着色がある場合は持つ所に注意する、借用する際には前もって梱包用の箱を準備しておく、梱包の際には箱の中で動かないように固定する、ただし押さえるところはなるべく少なくする、というのは仏像だけでなく立体物の梱包にも当てはまる重要な事であると思います。

取り扱いの際、白い手袋をはめて作業を行うと、仏像本体の木材に引っ掛けてしまうこともあるので、場合によっては素手で作業を行う方が良い場合がある、という事も自身にとっては大きな学びの一つでした。ものの取り扱いに関しては、状態を良く見て確認をし、そのものにとって一番良い方法を考え、臨機応変に対応することも大切であることを再確認出来た機会でした。

また薄葉は年を経るとシミが浮き出てきます。シミのついた薄葉を使い続けると、ものに移ってしまうので注意が必要であるということも保存の上で重要なことだと思いました。

梱包用の箱についても、日本通運美術品取扱作業員の先生方の技を学ばせて頂きました。仏像の台座の梱包では、中の台座を取り出す際に障害にならないよう、側面の一部が外側に倒れるように工夫されていました。安全に中身を取り出すことが出来るので、立体物の梱包の際には早速取り入れていきたいと考えました。

研修会では講師の先生方が説明をしながら順を追って梱包の実演をしてくださったので、わかりやすく学ぶことが出来ました。ありがとうございました。

公益財団法人 倉敷民芸館 森原 絵理香

備前池田家の伝えた文化遺産を守る会の活動

神原 邦男 氏 (川崎医療福祉大学元教授)



【第8回 講演会 一岡山の歴史を彩る祭礼行列を等身大に描こうー平成26年7月】

◆はじめに

平成23年に財団法人林原美術館が、財政危機に陥ったとき、美術館が所蔵する「備前池田家の遺産」が散逸しないように、林原美術館を守る会が発足した。その後、株式会社長瀬産業の経営により、美術館の運営が軌道に乗ったのを機会に、平成24年9月から「備前池田家の伝えた文化遺産を守る会」に名称と会の目的を変えて、岡山の文化遺産調査や講演会(年4回)を行い、備前池田家の文化遺産を守る活動をしている。とくに江戸時代から続く岡山城下町の生活文化の遺構・遺産を中心に調査を行い、年4回の講演会を通じて報告し、地域の文化の創生を目指している。会は、一般市民、企業、表町商店街、町内会、地域の大学等と協力して活動をしている。とくに就実大学吉備地方文化研究所とは密接な連携のもと協同調査や研究活動を行っている。

◆岡山市内に残る備前池田家の文化遺産の再生

岡山市内には、岡山城、後樂園、曹源寺など多くの文化遺産が現在に伝わり、人々の日常生活を潤している。旧城下町には、江戸時代以来、祭礼に使われてきた神輿や

ダンジリが保存され、今も祭礼では活躍している。旧市街の創生には、誰でも興味をもち参加できる「祭り」の再生がもっとも効果的な方策である。会では、有志の人々が、各町内会を訪ね、神輿やダンジリを調べて廻り、可能ならば、秋祭りに場所を選び、神輿やダンジリを集合させたいと、調査と関係者との交渉を続けてきた。しかし、岡山城下の歴史から、各神社の祭礼は、町内ごとに開催され、城下全体が一体となるのは、東照宮御祭礼のみであることが判明した。また各町内が保管する神輿・ダンジリを使用する行事は、古い街ほど人口減少から困難となっており、街の



【森下町内の「ダンジリ」調査・平成26年】

創生の行事には、調査の時間と経費が必要であることが明らかになった。このため、最初の行事として、岡山城下全体にかかわる備前藩が行った東照宮の祭礼を取りあげることにした。東照宮祭礼に関する資料は、現在も玉井宮、岡山大学図書館池田家文庫、林原美術館、地域の図書館などに多く伝わり、祭礼の歴史も理解し易いので、守る会では、祭礼を描いた絵巻物から祭りの様子を、合板に絵具を用いて等身大に描いて、祭礼の場면을再現することにした。

◆岡山の祭礼行列絵巻とその再現プロジェクト

林原美術館の所蔵品には、備前池田家の藩主をはじめ、江戸時代の人々の生活の様子を知ることが出来る資料が多く遺されている。その資料の中から、「東照宮御祭礼行列」の絵巻と、町人たちが「端午の節句」を祝う様子を描いた「菖蒲賦物絵」を選び、さらに国立歴史民俗博物館が所蔵する、備前藩の祭礼を描いた「東照宮賦物絵」を取りあげて、その絵巻に描かれた祭礼の場면을、合板に等身大に描き陳列することにした。昨年4月には、国立歴史民俗博物館の承諾を得て絵巻物の調査を行い、備前藩主池田継政の時代、元文4年(1739)から寛保2年(1742)まで、4年間のみ行われた東照宮御祭礼行列の内の、町



第9回講演会チラシ

人による『庭訓往来』の内、中世の各地の名産を売り歩く人々の様子を賦物とした跣物を描いた巻物であることが確認できた。『庭訓往来』は、中世以来、日本全国の人々が、日常生活に役立つ知識を得るため、教育のテキストとして使用した。江戸時代には広く流布したもので、商業が隆盛する時代、祭礼の題材に取りあげた備前藩の文化レベルの高さが窺える。池田光政が、岡山に東照宮を勧請して祭礼が行われた正保3年(1646)から、城下の町人たちが参加した跣物を、約100年後の元文4年(1739)に再興した祭礼行事であることも、調査で解明できた。国立歴史民俗博物館と林原美術館のご協力と承諾を得て、作業を進めており、平成27年4月には、絵巻の全内容が、簡単に理解できるように、カラー写真を用いて、1冊の本にして刊行する予定である。



制作作業の様子(就実大学美術部)

今年度4回目の第10回の講演会は、平成27年3月6日(金曜日)午後、岡山表町商店街のご支援を得て、表町商店街に最近オープンした「Omotecho Style Store」3階(株式会社ミヤコーポレーション)を会場に予定している。「祭礼絵巻」を再現する等身大に描く作業は、多くの希望者があり、玉井宮のご協力で、玉井宮内を作業場所に行うことにしている。

岡山市内の表町商店街や町内会など地域の人々と連携協力した活動を進めており、「祭礼絵巻」を等身大に描く作業が進み次第、披露していく予定である。なお、この活動は公益財団法人福武教育文化振興財団より助成をうけて実施している。

岡山市内の表町商店街や町内会など地域の人々と連携協力した活動を進めており、「祭礼絵巻」を等身大に描く作業が進み次第、披露していく予定である。なお、この活動は公益財団法人福武教育文化振興財団より助成をうけて実施している。



絵巻物を等身大に描く作業説明

つやま自然のふしぎ館〈津山科学教育博物館〉

「つやま自然のふしぎ館」は本年度開館52周年を迎えました。当館は、展示物の性格から常設展示が中心で、展示の様様替えや企画展示は殆ど行っておりませんが、教育普及活動の一環として、種々の事業を行っております。

昨年の目玉は、お盆の時期に行った「ナイトミュージアム」。(かつて、この題名でハリウッド映画がありましたね!) 夜間真っ暗な館内を高校生ガイドの先導でペンライトの明かりだけで探検するものです。野生動物の多くは夜行性なので、昼間と違った迫力が感じられ、大人も子供も大興奮でした。

年末には岡山県環境保護団体「アス ECO」に当館の目玉の一つである「ホッキョクグマ」を出張展示し、

地球環境の変化に対する展示のイメージキャラクターとして活躍しました。

その他、岡山理科大学、美作大学、倉敷芸術大学、津山高校等の学生に館内での研修授業、地域の小学校への出前授業等の課外学習を実施し、自然界の神秘と野生動物の生態について理解を深めてもらいました。

当館の所属する「津山社会教育文化財団」は2013年に「公益財団法人」の認可を受け、付設の「歴史民俗館」と共に、新たな運営形態で事業を行っております。これからも地域に根差した博物館として皆様に親しまれる企画を立案したいと考えております。

館長 森本 信一



出張中のホッキョクグマ



岡山環境保護センター (アス ECO)

現代玩具博物館・オルゴール夢館



現代玩具博物館・オルゴール夢館外観

現代玩具博物館・オルゴール夢館は美作三湯のひとつ湯郷温泉にある、おもちゃとオルゴールの博物館です。

1995年9月岡山県美作市後山(旧東栗倉村)に開館し、2010年3月開館15周年を機に同市内の湯郷温泉街に移転しました。

当館に所蔵しているのは子どもたちの健やかな成長を願って作られた世界のおもちゃや、100年以上も昔から人々に感動を与えてきたオルゴールです。

館内には2つの展示室があり、スイス・ドイツなどヨーロッパの木製玩具を中心に600点と、〈スイス、ニコールフレール社製〉のシリンダーオルゴールや〈ドイツ、ポリフォン社製〉・〈アメリカ、レジーナ社製〉のディスクオルゴール及び、オートマタ(からくり人形)など約30点を展示しています。

各展示室では、おもちゃやオルゴールの魅力をより深く感じていただく為に、おもちゃにまつわる話や例えばの遊び方を紹介する「おもちゃツアー」、オルゴールの歴史・しくみなどを紹介する「オルゴールコンサート」など毎日イベントを開催しています。また、様々な年齢

の方に工作体験をしていただけるよう、〈アトリエ(工作室)〉を設け、定期的に工作教室を企画しています。その他、〈ミュージアムショップ〉やおもちゃで遊べる〈ブレイルーム〉があります。

開館以来多くのご支援を頂き、おかげさまで現代玩具博物館・オルゴール夢館は、2015年9月に開館20周年を迎える運びとなりました。20周年を記念したイベントも開催予定です。

そして、更に多くのお客様をお迎えする為に、今春別館として機材を取り揃えた工作室を作り、団体での工作教室や大人向けからくり制作イベントを企画中です。

また、津山市の美作大学・短期大学部 地域生活学科研究所と共同で、県北の森林資源を活用した、「ごっこ遊び」をテーマとしたおもちゃ開発も進行しています。

将来的には商品化を目指し、地元の資源を活用することで、地域活性にもつなげたいと考えています。

子どもから大人まで楽しむことの出来る一施設として、地域と共に歩み、皆様の記憶に残るような愛される博物館となれたら、と鋭意活動中です。

学芸員 山本 沙織



おもちゃツアー (おもちゃの紹介)の様子



オルゴール展示室



からくり人形 ピエロエクリヴァン



ザイフェンのおもちゃ

日常と非日常をつなぐもの

路面電車内いっぱいの風船、岡山城天守閣が映り込んだ鏡面仕上げの卓球台でラケットを振る人々、何かに思いを巡らしている少女のポスターやポストカード——。私たちの見慣れた岡山の街のあちこちに突如として現代美術作品が出現した。

昨年11月2日から12月25日まで開催された現代美術の展示「imagineering」は岡山市主催の「おかやま未来づくりプロジェクト」の一環として実施された。歴史文化資産が存在する旧城下町エリアの回遊性向上を図る社会実験のための企画として採用されたプロジェクトだが、その他にいまや現代美術の発信拠点ともいえる瀬戸内に都市部から集ってくる人々を、玄関口となるここ岡山で繋ぐ狙いがコンセプトに掲げられていた。かくいう当館もイギリス出身のリアム・ギリックの作品を展示する会場として協力し、外壁には「The anyspace whatever…」という「任意空間」を示す言葉が貼られ、街行く人々が立ち止まってはその言葉と空間への考察に悩まされていたようである。

展示作品は石川康晴氏(株式会社クロスカンパニー代表取締役社長)の所有する現代美術のコレクションで構成されており、会期終了後に当館で始まった特別展「プライベート・ユートピア ここだけの場所—ブリティッシュ・カウンシル・コレクションにみる英国美術の現在」にも出品の、近年目覚ましい活躍を広げているライアン・ガンダーや、2001年にターナー賞を受賞したマーティン・グリードの作品も展示されていた。丁度「imagineering」会期中に欧米に活動拠点を持つ日本人作家と話しをする機会があったのだが、「現在第一線で活躍するこれらの作家たちをまとめて日本で見られるなんて素晴らしい」とこのプロジェクトに関して興味津々な様子で、県外からも高い注目を受けていることを窺い知ることが出来た。

昨今、岡山市では岡山駅周辺の商業エリアから文化施設エリアへの回遊性の課題が叫ばれている。買い物や遊びを目的に街へ集まる人々に、芸術文化へ目を向けて貰うためにどうしたら良いのか、各文化施設が試行錯誤しているところだが、やはり人々の暮らしとどれだけ交流できるかで芸術の役割というものも生きてくるのだと思う。日常に対する気付きを与え、新たな視点からものごとをみる力と感性を養う場を提供するのが文化施設としての使命ともいえるが、非日常の空間で本物に触れ感じたことをまた日常にフィードバックしていく、そんな繋がりを可能にするためには、人々の日常にまず我々の方から近づく必要があるのかも知れない。

ネットワークの発達によって情報と体験を共有することが安易になり、それによるメリットとデメリットが表裏一体になりつつある世の中だが、やはり「本物」を直に体験して生まれる発見や感情は、何よりも価値ある財産になり得るのである。人々の日常の暮らしと交わる点を探りながら文化との繋がりを広げていく術を検討していきたい。

(岡山県立美術館 学芸員 大山真季)



岡山県立美術館におけるリアム・ギリック《theanyspacewhatever》展示風景

岡山県博物館協議会賛助会員企業・団体一覧(平成27年2月1日現在)

朝日新聞社岡山総局	公益財団法人岡山県郷土文化財団	(株)クロスカンパニー	(株)成通	友野印刷(株)	(株)フジワラテクノアート
(株)イーオン	岡山市農業協同組合	坂本工業(株)	全日信販(株)	トヨタカラー岡山(株)	フルハーフ岡山(株)
(株)岩井工業所	岡山大鵬薬品(株)	(株)佐野組	タカヤ(株)	(株)トンボ	(株)ベネッセホールディングス
医療法人えんさこ医院	岡山放送(株)	三友不動産(株)	(株)田中商会	(株)ナイカイアーキット	(株)山田養蜂場本社
(株)大手饅頭伊部屋	(株)岡山臨港	山陽映画(株)	(株)中国銀行	日本通運(株)岡山支店	両備ホールディングス(株)
(株)大本組	管公学生服(株)	(株)山陽新聞社	中国建設工業(株)	日本放送協会岡山放送局	
岡崎共同(株)	(株)菅田	山陽放送(株)	東洋砕石工業(株)	蜂谷工業(株)	
(株)岡山医学検査センター	(株)キャリアプランニング	(株)サンラヴィアン	(株)トマト銀行	(株)林原	
岡山ガス(株)	倉敷木材(株)	シャープタカヤ電子工業(株)	(株)トミヤコーポレーション	日生運輸(株)	

編集後記

会報第47号をお届けします。本号では神原邦男氏から美術館だけではなく市民、企業、町内会、大学などが協働して岡山市内の文化遺産を守る取り組みをご紹介いただきました。さまざまな立場の人がつながることで、地域に対する愛着や理解が深まることでしょう。各地域で活躍される加盟館からの投稿もお待ちしております。

(岡山県博物館協議会 事務局 福富 幸)

※訂正: 会報「第46号」7ページに誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫びいたします。
誤 (岡山市水道局企画課 総務課長 豊田 選久)
↓
正 (岡山市水道局 企画総務課長 豊田 誠久)

岡山県博物館協議会会報

岡山の博物館

No.47 平成27年2月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 鍵岡 正謹

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648